

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：80101

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12558

研究課題名（和文）考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental Study on Ainu Folklore Materials in Museums Using Archaeological Analysis methods.

研究代表者

大坂 拓 (OSAKA, Taku)

北海道博物館・アイヌ民族文化研究センター・学芸主査

研究者番号：60761658

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、北海道・サハリン・千島列島に居住してきたアイヌ民族が遺した物質文化資料のうち、従来は体系的な検討が行われてこなかった繊維製品を主な対象として、日本国内の博物館等に所蔵されている資料の型式学的分析を実施し、地域差と年代差を具体的に明らかにした。また、いくつかの地域について人口統計等との比較検討をおこない、資料の空白域が形成された過程についても検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により得られた成果は、今後、考古学との比較研究に向けた参照枠となるだけでなく、アイヌ民族による民族文化復興運動に対して、物質文化研究の立場から地域差・年代差を踏まえた確実な情報提供を行う際の基礎としても重要なものといえる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we focused on baskets and other woven items as the main object of study among the material culture of the Ainu.

The findings of this study hold significant importance, as they serve not only to establish a framework for comparative research with archaeology but also as essential resources that provide reliable information for the Ainu cultural revival movement.

研究分野：考古学

キーワード：アイヌ 物質文化 民具 製作技術 型式学的手法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

アイヌ民族の物質文化については、考古学の分野において遺跡からの出土資料を対象とした分析が盛んにおこなわれており、いわゆる「民具資料」についても1970年代以降、出土資料との直接的な対比が可能な骨角器や鉄器について、極めて精緻な検討成果が蓄積されてきた。一方で、出土資料との対比が困難な編組製品・木製品などについては、戦前期の記録をもとにした基礎的な記述に留まっており、個々の品目の地域差・年代差についてはほとんど明らかにされていない状況にあった。

そのため、博物館等においては多くの民具資料が漠然とした「過去」を象徴するものとして展示されるのみで、それが近世から現代のどの時点に、どのような歴史的脈の中で製作・使用されたものなのかといった点に踏み込んだ解説が加えられることは稀であった。

また、アイヌ民族の伝統文化に関する関心が高まりを見せるなかで、文化復興運動に携わる当事者から自らの先祖が居住した地域の歴史・文化に関する情報を求める声が博物館等に多く寄せられているが、既存の研究はそうしたニーズに十分に答える水準に達しているとも言い難かった。

### 2. 研究の目的

本研究では、北海道・サハリン・千島列島のアイヌ民族が残した物質文化のうち、主にこれまでほとんど分析対象とされてこなかった繊維製品について、現在日本国内の博物館等に所蔵されている資料を対象として型式学的手法による分析を実施し、品目ごとに地域差・年代差を具体的に明らかにすることを目指した。これはアイヌ民族の近現代の経験を物質文化によって跡付けるものであるとともに、アイヌ民族の当事者らによる民族文化復興運動に対して、地域差・年代差を踏まえた情報提供を可能にするための基盤整備という側面も有する。

### 3. 研究の方法

本研究では、第一に繊維製品等を対象として年度毎に対象品目を設定し、製作技術・素材に着目した分析を実施することとした。第二に、資料分布の空白域や組成の偏りの成因を把握するため、近世末以降の文書資料との比較検討をおこなった。

### 4. 研究成果

#### (1) 民具の個別研究

民具の品目ごとの検討は、2018年度に編袋(saranip/sararip)、2019年度に葬送用広紐(murir/para murir)、2020年度以降にゴザ類(kina/onikapunpe)の検討を進めた。ただし、ゴザ類については調査の途上で新型コロナウイルスの感染拡大が発生し、資料調査の一部を断念せざるを得なかったため、成果の公表は対象地域を限定した部分的なものとなせざるを得なかった。

編袋の検討では、1950～80年代を境として、それまでは特定の地域で大型の製品のみに用いられていた技術が、他地域にも広がるとともに小型品にも採用されるようになったことが明らかになった点が重要である。変化の背景としては、観光地で土産物としての需要が拡大する中で大量生産が指向されたことで、編み台を用いた比較的簡易な技法が広く採用されたことが想定され、そこからは固定的な「伝統」・「継承」のイメージに留まらない積極的な選択が存在していたことが読み取れるからである。

葬送用広紐の検討では、編みの技法に20種のバリエーションが確認され、いくつかの技法は明確な地域的なまとまりをなしていることが確認された。従来の研究では、「8本編み」、「10本編み」といった概括的な把握がなされてきたが、それぞれの中にいくつかのバリエーションがあることが明らかになった点は、アイヌ民族の編組技術に関する基礎的な情報の充実として重要である。

ゴザ類の検討では、市立函館博物館所蔵資料の中に、千島アイヌが製作した可能性が極めて高いものが含まれていることを確認し、関連史料と合わせて報告した。従来、北海道アイヌ・サハリンアイヌのゴザ類は比較的多くの資料が確認されていたが、千島アイヌのものであることが確実な資料は、少なくとも国内には1点も存在しないと考えられてきた。今回の成果はその資料の空白を埋めるものである。

## ( 2 ) 分布の空白域の形成について

現存するアイヌ民具資料群は、アイヌ民族が居住する地域のうち、相対的に人口規模が大きく、「伝統的」な暮らしが色濃く残ると考えられていた集落から、特に「伝統的」な要素を示すと判断された品目が選択的に収集されることで形成されたものと考えられる。そのため、資料の分布・組成には収集に携わった研究者らの基準という強いバイアスが作用している可能性が高く、解釈には慎重さが求められる。そこで、2018年度に石狩市浜益、2019年度に渡島半島、2020年度に後志地方を対象として、各種文書資料を用いて近世末～近代のアイヌ民族の人口動態や生業を復元し、現存する民具資料と比較する作業を行った。

その結果、まとまった人口があり伝統的な狩猟活動も継続していたにも関わらず、表面的に文化的な「同化」度が高いと見なされていたために資料収集の対象とならなかった集落の事例など、様々なケースが存在したことが確認された。また、多くの集落で生業の中核をなしていた漁業については、和人の漁撈具との差異が認めがたかったためか、基本的に収集の対象とされていなかったことも明らかになった。

## ( 3 ) 写真資料の検討

研究の途上で、近代以降に撮影された写真資料の中に、民具資料の特徴を読み取ることが可能なものや、現存する博物館収蔵資料そのものが写っており背景情報を補完し得るものが含まれている事例が存在することが明らかになった。そこで、1930年代に北海道南部の長万部町に設置された展示施設「エカシケナル」関連資料等について、基礎的な情報を整理して報告した。

## ( 4 ) 博物館展示を通じた研究成果の社会還元

上記の研究成果の一部を、研究代表者が展示構成を担当した令和3年度アイヌ工芸品展「アイヌのくらし 時代・地域・さまざまな姿」(北海道博物館：2021年10月16日～12月12日、群馬県立歴史博物館：2022年1月15日～3月6日)に反映させた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 2022
2. 論文標題 琴似又一郎の写真について 北海道大学附属図書館所蔵資料の再検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 札幌博物場研究会誌	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 加藤克, 大坂拓	4. 巻 2022
2. 論文標題 札幌博物場所蔵アイヌ民具資料（死体包装用縄・背負縄）の資料情報の復元	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 札幌博物場研究会誌	6. 最初と最後の頁 9-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大坂拓	4. 巻 22
2. 論文標題 千島アイヌの編組製品とその技術的系譜	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 第22回北アジア調査研究報告会予稿集	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大坂拓, 大矢京右	4. 巻 8
2. 論文標題 市立函館博物館が所蔵する噴火湾アイヌの木幣について 資料情報を復元・再検討する試み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 35-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 8
2. 論文標題 千島アイヌのゴザに関する基礎的検討 市立函館博物館所蔵資料の位置づけについて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 696
2. 論文標題 二つの「モノ」からたどるアイヌ民族の歴史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 開発こうほう	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 6
2. 論文標題 後志地方の近代アイヌ社会と民具資料収集の射程 旧開拓使札幌本庁管下後志国9郡を対象として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 2020年秋号
2. 論文標題 再発見 音吉さんのイナウ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 森のちゃれんがニュース	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 5
2. 論文標題 渡島半島のアイヌ社会と民具資料収集者の視野 旧開拓使函館支庁管轄地域を中心として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 47-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 5
2. 論文標題 北海道アイヌの葬送用広紐に関する基礎的検討 製作技術の地域差と日高東部地域における東方系・西方系出自集団との関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 23-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓・小川正人	4. 巻 5
2. 論文標題 アイヌ文化展示施設「エカシケル」関連の新資料 2019年度新収蔵資料の紹介	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 199-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 4
2. 論文標題 浜益地域のアイヌ民具資料に関する基礎的検討 1930年代の研究動向と工芸家山下三五郎の活動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 4
2. 論文標題 アイヌ民族の編袋 地域差と年代差、及び「土産物」・「伝統工芸品」としての継承	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 25-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大坂拓	4. 巻 4
2. 論文標題 アイヌ民族の漁具・木盆 2018(平成30)年度新収蔵資料の紹介 1	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 93-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木利和・五十嵐聡美・浅野敏昭・三浦泰之・大坂拓・田島佳也・小川正人	4. 巻 4
2. 論文標題 [公開研究報告会]余市のアイヌ文化を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 109-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 大坂拓
2. 発表標題 渡島半島におけるアイヌ民族の歴史と文化
3. 学会等名 第34回アイヌ民族文化祭(招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大坂拓, 谷本晃久, 八幡巴絵, 八谷麻衣, 大矢京右, AINUance, 亀丸由紀子, 田中祐未, 猪熊樹人, 司馬哲也, 貝澤徹, 山崎幸治, 瀧口夕美, 北原モコットウナシ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 公益財団法人アイヌ民族文化財団	5. 総ページ数 300
3. 書名 アイヌのくらし 時代・地域・さまざまな姿	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------